

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	80人	算数	80人	理科	81人
第5学年	国語	85人	算数	85人	理科	85人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

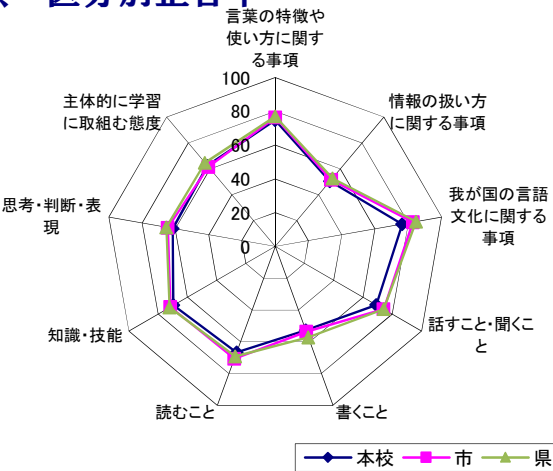
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.8	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	50.4	51.5	52.7
	我が国の言語文化にに関する事項	76.3	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	69.2	74.1	74.2
	書くこと	52.7	53.7	57.2
	読むこと	66.7	70.7	69.2
観点	知識・技能	69.6	71.6	72.3
	思考・判断・表現	61.6	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	62.5	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

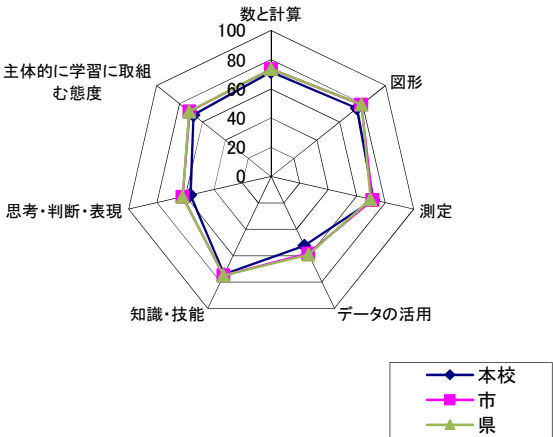
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○第3学年の漢字の読み書きについては、ほとんどが県平均正答率を上回っている。 ●平均正答率は県や市よりもやや低い。中でも「ローマ字で書かれたものを正しく読む」、「2段落構成で文章を書く」項目で大幅に県平均正答率を下回っている。	・漢字の学習についてはおおむね達成しているため、今後も日々の宿題や漢字ドリルなどを活用して継続して指導していく。 ・ローマ字の読み取りが弱いので、朝の学習や宿題などで定期的にローマ字を読む復習を行う。 ・作文の機会が1学期はほとんどなかったもので、2学期からは指定された条件を使った作文に取り組む機会を定期的に設けて書く力を付けていく。
情報の扱い方にに関する事項	○国語辞典の使い方については県平均正答率をやや下回っているものの、おおむね定着している。 ●平均正答率が県や市の平均よりもやや下回った。	・漢字辞典について、常時活用できるように学習環境を整えたとともに授業内容を工夫するなど、使い方を理解し習得できるように指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	○定着率は8割近いので、おおむね身に付いている。 ●市の平均正答率より6.5ポイント、県の平均正答率より8.4ポイント下回っている。 ●「漢字のへんやつくりの理解」についての内容定着が不十分であることが分かる。	・漢字のへんやつくりについて、新出漢字練習の時に押さえるだけでなく、これまで学習した内容についても確認テストをするなどして定着を図る。
話すこと・聞くこと	○「話し手が伝えたいことの中心を捉える」項目は、県の平均正答率を0.4ポイント上回っている。 ●平均正答率は県や市よりも約5ポイント下回った。 ●「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える」内容が、県平均正答率より6.8ポイント下回っている。 ●「相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げて話す」内容は、県平均正答率を0.2ポイント上回っている。	・話す単元の学習の際、「話し手の工夫」は何かを押さえて教材の工夫を聞き取ったり、実際に自分たちで取り組んだりして定着を図っていく。 ・普段の授業だけでなく、学級会での発言などでも自分の考えを理由を付けて述べる習慣を付ける。
書くこと	○「自分の考えを明確にして文章を書く」項目は、県平均正答率を7.7ポイント上回っている。 ●平均正答率は市の平均よりも1ポイント下回っており、県の平均よりも4.5ポイント下回っている。 ●指定された長さで文章を書いたり、2段階構成で文章を書いたりする項目が県平均正答率を大幅に下回っている。	・指定された条件を使った作文に取り組む機会を定期的に設けて書く力を付けていく。 ・他教科や行事などと関連付けながら、書く時間をしっかりと確保して書くことに慣れさせる。 ・作文の書き方や文章構成など、基本的な内容を繰り返し指導して定着を図る。
読むこと	○登場人物の気持ちや場面の様子を捉える内容については、県平均とほぼ同様の正答率である。 ●読むこと全体の平均正答率は県や市よりも約3～4ポイント下回っている。 ●「叙述を基に段落の内容を捉える」項目が、県平均正答率を10.4ポイント下回っている。	・物語文や説明文において、各段落のあらすじを捉える活動を丁寧に行う。 ・あらすじの捉え方について、接続語に注目したり、キーワードに注目したりして短文でまとめるという基本を押さえる。 ・読むこと全体の平均正答率が低いので、学習プリントを使ったり、日々の授業で指導したりして、読む力の基礎を培う。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.6	73.5	73.6
	図形	75.0	79.0	79.1
	測定	71.8	71.1	69.8
	データの活用	52.5	58.4	59.2
観点	知識・技能	74.0	75.0	75.0
	思考・判断・表現	56.6	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	67.9	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

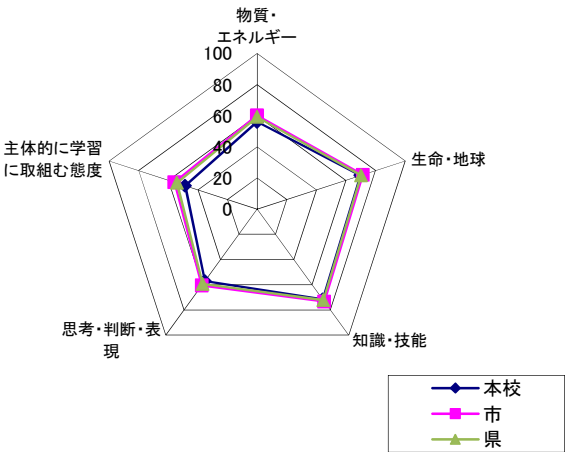
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数に関する問題では、数直線上の表し方について理解し、県平均正答率を9.6ポイント上回った。 ●大きな数の相対的な大きさを問われる問題については、県の平均正答率を5.3ポイント下回った。	・基礎的内容の定着を図るために継続して計算ドリル等の反復練習に取り組む。 ・朝の学習や家庭学習などを活用しながら継続して指導し、理解と定着を図るようにする。
図形	○球の半径から箱の長さを求める問題では、県平均正答率を1.8ポイント上回った。 ●正三角形を作図する問題では、県平均正答率を15.3ポイント下回った。	・円の半径や直径の求め方等を確認し、様々な練習問題を解き、多様な見方で問題を解くことができるようにしていく。 ・苦手に感じている児童や理解が定着していない児童に対して、少人数指導を活用しながら、計算問題だけではなく、図形などを使った様々な形の問題にも対応できるように、苦手克服ができるよう個別に指導していく。 ・演習を重ねて作図の問題に慣れさせる。
測定	○1分＝60秒の関係を答える問題では、5.0ポイント、道のりの意味理解を確かめる問題については6.9ポイント県平均正答率を上回った。 ●時刻と時間に関する活用問題では、県平均正答率を2.9ポイント下回り、文章を読み解き基礎知識を活用することに課題が見られた。	・学習内容の理解を深めるため、生活と結び付けた問題や、類題に積極的に取り組ませ、繰り返し問題に取り組むことで学習内容の定着を図る。 ・時刻や時間の読み方など再度確認した上で、文章問題など活用問題を朝の学習などで取り入れ、さらなる定着を図る。
データの活用	○棒グラフを読み取る問題は、県の平均正答率とほぼ同じであった。 ●棒グラフを読み取り、理由を添えて間違いを説明する問題では、県平均正答率を10.5ポイント下回った。また無回答率が10.0%で記述問題での課題が見られた。	・言葉・図・グラフ・数直線などを用いて考えたり説明したりする学習を積極的に取り入れ、子ども同士の学び合いの機会を設定するとともに、少人数指導も活用し、多様な見方で解決する力を育てる。 ・棒グラフの縦軸、横軸が何を表しているのか、どんな特徴があるグラフなのか、またグラフのどこを確認すれば問いに答えられるのかを段階的に指導していく。 ・まとめや振り返りの活動の際、教師が児童の発話からキーワードを提案し、自分の言葉で書くなど、記述力向上を図る。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.1	60.2	59.2
	生命・地球	69.9	71.3	70.3
観点	知識・技能	71.8	73.4	72.3
	思考・判断・表現	57.1	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	48.6	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○磁石の性質に関する問題は、市の平均正答率を上回るかほぼ同じである。特に、磁石につく物かつかない物の理解は市の平均正答率を16.6ポイント上回った。また、電気を通す物と通さない物に関する問題、風の強さと車の動く距離の関係を推測する問題は、市の正答率と同程度である。以上のことから、実験や観察を通して理解した基本的な学習内容の定着が伺える。 ●音の性質、物の重さに関する問題に課題が見られる。音の性質については、糸電話の仕組みに関する記述問題の正答率が市よりも18.4ポイント下回った。基礎的な学習内容である、音の大小によるふるえ方の違いを理解が不十分だと考えられる。物の重さについては、結果を推測し、説明する問題の無回答が22.2%と多いことも課題である。	・授業においては、自分の考えを書く活動を意図的に位置付けていく。書く活動と話し合い活動を関連付けることによって、自分の考えをまとめ、整理することで記述式の問題を解く力を高める。 ・実験を行った際、結果を図を用いて表現したり、性質について自分の考えをもったりするなどの時間を充実させる。結果をグラフや表にまとめ、そこから考察できることを自分の言葉で記述させていきたい。
生命・地球	○昆虫の体のつくりに関する問題では、市の平均正答率を9.3ポイント上回っている。また、昆虫の体のつくりを踏まえ、ダンゴムシが昆虫かどうかを説明する問題では、市を0.4ポイント上回り、無回答はいなかった。昆虫に関する興味関心の高さと、学習内容の定着が伺える。 ●虫めがねの正しい使い方に関する問題は、市の平均正答率を27.2ポイント下回った。 ●植物の育ち方では、グラフから、ホウセンカがよく成長した期間を読み取り、記録カードと関連付けを行う問題の正答率が市を6.8ポイント下回った。	・用具や実験器具の使い方について、図を用いてノートにまとめる活動を充実させていく。また、理科の見方や考え方を働かせていくため、実験結果や観察の記録を児童が自分の言葉でまとめ、グループやクラスで話し合ったり、発表したりする機会を意図的に設定していく。 ・宿題や授業の始めなどに、定期的に復習問題に取り組む、定着を図っていく。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習に関する質問は、全て市の肯定割合より高く、学習に関する意識の高さが伺える。特に、「家で学校の宿題をしている」「はい」と回答した児童は、市の割合より5.3ポイント高く、家庭学習の習慣化が図られていることが分かる。今後は、自主学習として宿題の他に自分で考えた学習を行えるようにし、主体的に学びに向かう力を育みたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問に対する肯定割合は86.4%と、市の割合より3.2ポイント高い。また、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の質問に肯定割合は74.1%と、市の割合を16.6ポイント上回っている。このことから、学習内容を理解したことにより、興味関心をもって取り組むことができていると推測できる。授業中の様子からも、発展的な問題にもあきらめずに挑戦する児童や、「次はこんなことを学習したい」と次の学習に意欲をもつ児童が多いことを感じる。こうした意欲を高めながら学習に取り組めるよう、今後も認め励まししながら授業を展開していく。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の質問に対する肯定割合は71.6%であり、市の割合を11.8ポイント上回っている。当番活動の工夫や係活動の充実の成果であると考えられる。今後も児童同士の認め合いの場を設定したり、担任から励ましの声掛けを行ったりするなど、一人一人の自己肯定感や所属感を高められるように支援したい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の質問への肯定割合は53.1%であり、市の割合を7.6ポイント下回っている。授業のまとめの際にキーワードを提示し、それを基に自分の言葉でまとめる、言葉だけでなく図を用いてまとめるなど、いくつかの方法を提示し、文章を書くことへの抵抗感を減らしていきたい。

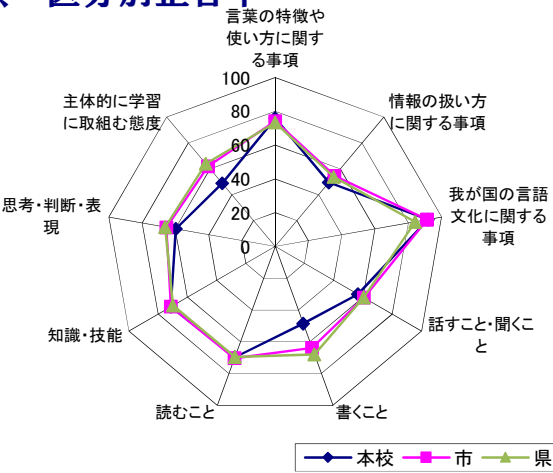
●「毎日朝食を食べている」の肯定割合は92.6%であり、市の割合を3.2ポイント下回っている。児童への食育指導とともに、学年だよりや学級懇談などで家庭への啓発を行うなど家庭と連携を図り、一日の活力となる朝食をしっかり摂って学習に取り組めるようにする。

●「ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか」の質問に、9時間以上10時間未満と回答した割合が40.7%と最も多いが、6時間より少ないと回答した割合が4.9%おり、市よりも1.4ポイント高い現状である。これは、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか」の質問に4時間以上と回答した児童の割合23.5%、また「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」に4時間以上と回答した児童の割合も17.3%である。テレビやゲームの時間が長くなり、睡眠時間が削られていることが考えられる。テレビやゲームの時間の再確認を呼び掛け、生活習慣が見直されるように家庭と連携して取り組む必要がある。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.9	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	49.4	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	91.8	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	56.5	60.6	60.4
	書くこと	48.5	63.8	68.0
	読むこと	69.8	70.4	69.6
観点	知識・技能	71.3	71.3	69.9
	思考・判断・表現	59.7	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	48.9	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

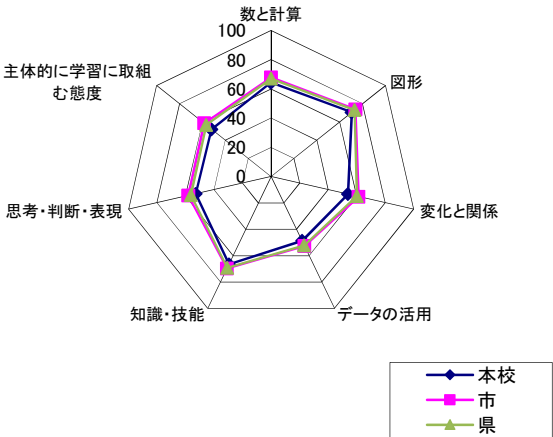
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は県や市のよりもやや高い。漢字を書く内容については県の平均正答率を大きく上回っている。学年で統一している日々の漢字練習の成果と考えられる。 ●言葉の学習の連用修飾語の設問の平均正答率は、市の平均よりも8.2ポイント下回った。	・漢字の学習については、漢字テストのための一時的な学習にならないように、今後も継続して漢字の学習に取り組むようにし、さらに他教科の学習でも既習の漢字を正しく読み書きできるように丁寧に指導し、定着を目指す。 ・修飾語などの語句について、国語の授業以外でも意図的に授業で取り上げて解説するなど、理解できるように工夫していく。
情報の扱い方にに関する事項	○情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉える設問では、平均正答率が市平均を4.8ポイント上回った。 ●平均正答率が県や市の平均よりも下回った。特に漢字辞典の使い方について課題が見られた。	・漢字辞典について、常時活用できるように学習環境を整えるとともに授業内容を工夫するなど、使い方を理解し習得できるように指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	○平均正答率は市とほぼ同じである。	・授業の中だけでなく宿題などを通してことわざについて取り上げたり、調べる時間を設けたりするなどの工夫をし、ことわざに親しむ機会を増やして、今後もより一層の定着を図る。
話すこと・聞くこと	○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問では、県平均とほぼ同じである。 ●平均正答率は県や市よりも4ポイント下回った。司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して考えをまとめる設問では、市平均よりも5.1ポイント下回っている。さらに無回答も7.6%見られた。	・話すことについては、伝えたいことを整理し、聞き手に分かりやすく伝える工夫を実践できるよう、他教科とも関連付けて指導していく。 ・聞くことについては、授業だけでなく朝の会のスピーチや学習活動全般において、自分の考えと比較して聞くことや発表者の意図に気を付けながら聞くことなど継続して指導していく。
書くこと	●平均正答率は市の平均よりも大きく下回っている。文章を書く内容の設問では、全ての項目で10ポイント以上下回っている。さらに、無解答の児童が13.4%であり、記述式の問題について大きな課題が見られる。	・記述式の設問では無解答が見られるなど、苦手意識をもっている児童が多いと考えられる。書く活動を国語の授業だけでなく他教科や行事などとも関連付け、時間をしっかりと確保し目的意識をもって取り組むことで、抵抗を減らし、文章を書くことに慣れさせていく。 ・文章の構成について丁寧に繰り返し指導することで習熟を図っていく。
読むこと	○平均正答率は県や市とほぼ同じである。物語の内容を読み取り、叙述を基に登場人物の気持ちについて捉える設問では、市の平均よりもやや高い。進んで読書に親しむ児童が多いことが関連していると考えられる。 ●説明文の文章を読んで感じたことや考えたことを共有する設問では、市の平均正答率よりも10.1ポイント下回っている。説明文の読み取りについて課題が見られる。	・物語文では、叙述に即して人物の心情や情景を正しく読み取れるように授業で丁寧に取り組んでいくとともに、それらを基に自分の考えをまとめていく活動を取り入れていくようにする。 ・説明文では、段落の関係や文章の構成について気を付けながら読んだり、要点をまとめたりする活動に丁寧に取り組んでいく。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.4	67.8	67.0
	図形	70.6	73.9	73.1
	変化と関係	53.9	61.4	60.2
	データの活用	48.8	52.7	52.1
観点	知識・技能	66.6	69.7	69.2
	思考・判断・表現	52.8	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	52.1	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

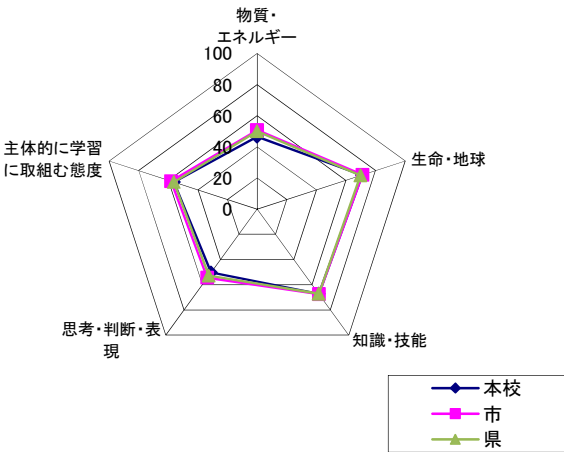
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○がい数の表し方の問題では、上からある桁までの概数の表し方について理解し県平均正答率を3.1ポイント上回った。 ●数直線上に示された分数の読み取りの問題では、県の平均正答率を5.7ポイント下回り数直線の理解に課題が見られる。	・計算力や数の概念など基礎的・基本的な学習内容が定着するよう誤答の見直しを確実にしたり、プリントやワークテスト後には、誤答の多かった問題については繰り返し取り組みせたりする。 ・朝の学習の時間を活用し、課題の見られる学習については繰り返し学習し、定着を図る。 ・数直線を用いた指導を大切に、ノートに数直線を書くことで、数の大きさを読み取ったり、大きさを確認することができるようにする。
図形	○直方体のある辺に平行な辺を選ぶ問題では、県平均正答率を12.7ポイント、長方形の面積を求める問題では4ポイント上回った。 ●ひし形を作図する問題では、県平均正答率を15.2ポイント、分度器の中の角度、180°より大きい角度を読み取る問題ではともに9ポイント下回った。	・繰り返し問題に取り組み復習を行うことで学習内容の定着を図る。 ・今後の授業でも、立体を活用し児童自身が視覚的に確認できる機会を意図的に取り入れる。 ・3・4年生の授業で定規・コンパス・分度器を使用してきたが今後も定期的に作図させ、定着を図る。 ・分度器の読み方について再度確認し、反復練習を行う。
変化と関係	○伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことは県の平均正答率とほぼ同等であった。 ●基準量と比較量から求めた割合を比較してどちらの包帯がよく伸びるかを説明する問題では正答率が29.4%と低かった。無回答も40%と県の無解答より14.3ポイントも上回っており課題が見られる。	・授業において計算の方法や考え方を説明する活動や、友達との意見交換の機会を意図的に設けることにより、考えを自分の言葉で書くことの習慣化を図っていく。 ・繰り返し問題に取り組み復習を行うことにより学習内容の定着を図る。
データの活用	○折れ線グラフや棒グラフを読み取る問題は、市・県の平均正答率とほぼ同じであった。 ●2つの折れ線グラフを読み取りそれを根拠に理由を説明する問題では、正答率は市・県の正答率とほぼ変わらないものの無解答率が42.4%と県の無解答率を15.9ポイント、市無解答を12.6ポイントも上回り記述問題での課題が見られる。	・折れ線グラフや棒グラフの読み取りでは、今後も縦軸・横軸それぞれの表す数値、一メモリの表す数値に着目しながら正確に読み取っていけるよう繰り返し指導していく。 ・課題のみられたグラフの読み取りでは、授業時間で自分の考えを書くだけでなく、友達の伝えたいことに耳を傾け理解させるとともに、推測したり他者の立場に立ったり、代替案を考えたりする思考活動を意図的に設ける。また、教師が児童の発言から関連するアイデアを引き出したり、大切なキーワードを提案していく。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	46.5	50.8	50.0
	生命・地球	70.9	71.1	69.8
観点	知識・技能	67.3	67.6	67.2
	思考・判断・表現	50.4	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	56.2	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○自然の中の水に関する問題は市と県の平均正答率を上回っていることから、理科の用語の定着が図られ、「結露」などの現象や性質を理解していることが分かる。 ●記述問題で無解答の児童が20%を超えていることから、自分の言葉で表現することに課題が見られる。 ●物体の体積と力に関する問題では、実験の結果を基に考察する解答の正答率が低く、無解答の割合が高かった。結果を加味して説明する思考力や表現力が十分に身に付いていない状況がある。	・基本的な理科の用語については、定着が図れるように繰り返し指導する。 ・課題意識をもって実験・観察に取り組めるように指導するとともに、結果から分かることを自分の言葉で表現できるように支援する。そのために、理科の言葉が説明する現象や性質を、事前に正しく理解させていく。 ・予想を立てたり、結果を考察したりと、自分の言葉で説明する活動を充実させる。
生命・地球	○方位磁針の正しい使い方を答える問題では、県の平均正答率を15.9ポイント上回っている。星座の位置に関する問題や、満月の1日の動きを答える問題の正答率も高いことから、「月と星」の内容が定着していることが分かる。 ●グラフから、ヘチマのくきののびと気温の変化の関係を読み取り、説明する問題は、市と県の平均正答率と比べて7ポイント以上低い。グラフの読み取りに課題が見られる。	・覚えるべき内容が身に付くようプリントで、繰り返し復習する。 ・日頃の生活や自己の経験、見聞などを理科的事象と関連付けて、児童の興味関心を高めるようにしていく。 ・グラフや表をもとに、結果を自分の言葉で書く活動を充実させる。必要な情報を、適切に読み取ることができるように丁寧に指導する。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日の生活が充実している」と回答した児童の割合は、91.7%で県や市の平均を上回っている。これは家庭はもちろん、1日の大半を占める学校生活を児童が楽しんでいることの表れであると思われる。今後も魅力ある学校生活であり続けるために児童と教師の信頼関係を育み、学校全体で分かる授業を展開していきたい。また、学校行事等で工夫したり、地域との連携した活動をしたりする中で、児童の意見を取り上げつつ学校生活を充実させていきたい。

○「毎朝、朝食を食べている」と回答した割合は、91.8%であった。今後も食育指導を重点的に設けて、保護者への啓発活動を行うなど、家庭と連携を図りながら、児童がしっかりと朝食を食べ、学校生活に臨めるように努めていきたい。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した割合は、97.6%であった。話し合いなどが各クラスで行われており、併せて指導もされているためと思われる。今後もルールを守った話し合いを励行していきたい。

○「授業では、クラスの友達の間で話し合う活動をよく行っている」では、県の平均を11ポイント上回った。引き続き授業の中で、ペアやグループなどでの話し合いや情報交換を行う場を多く設定し、コミュニケーション力をつけたり、自分の考えを深めたりできるようにしていく。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」の割合は94.1%で市の平均を上回った。ほめることでよさを伸ばしていけるような指導を今後も継続する。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」の割合は、60.0%で、市や県を上回っている。今後も児童が発言しやすい授業環境と話し合いの場を進んで設定していきたい。

○「自分は勉強がよくできる方だと思う」割合は、61.2%で半数以上であり、市や県の平均の5割弱を上回っており、勉強に自信への表れともいえる。そうした児童がさらに増えるよう学習指導をしていく必要がある。前日に学習した計算や宿題に出した漢字など以前に学習した内容を繰り返し復習し、「できる！できるようになった！」という自信につなげていきたい。

●「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」と回答した割合は、89.4%で、市や県の割合が0.6ポイント下回っている。今後は係活動を工夫したり、児童会活動の場を多く設定したりして児童の意識向上に努めたい。

●「難しい問題に出会うと、よりやる気が出てくる」の問いに肯定的回答した児童の割合は、市の平均46.2%より若干低い。この傾向は、児童のやる気を出させるには与える問題の工夫が重要であるともいえる。「学校の宿題はやりたくない内容だ」の回答は、5割程度であり、あまり高い数値ではない。このことから、児童が意欲的に取り組めるような宿題を工夫していく必要があるだろう。

●「1日当たりのテレビゲームの時間(平日)」で4時間以上と回答した児童の割合は21.2%で、県や市の平均は11～13%となっている。その時間を読書や家庭学習に少しでも結び付けられるよう、学校と家庭で早急に対策を講じる必要が感じられる。例えば1日のテレビゲームの時間を○時間以内とした目標を学校と家庭で掲げるなどが挙げられる。

●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」では、市や県の平均を8ポイント以上下回っている。今後は授業の中でめあての確認とふり返りの時間をしっかりととり、さらに、自主学習やほかの学習活動においても児童が自ら

宇都宮市立横川西小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学びを実感できる授業づくり	1時間ごと、また単元を通した学習課題やめあてを明確に示し、見通しをもたせるとともに、めあてに沿った学習のまとめと振り返りを行う。	質問紙調査の結果、「授業の中で目標が示されている」「ノートには、学習の目標とまとめを書いている」の肯定割合は、市の割合とほぼ同じか高い割合であった。しかし、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定割合は、市の割合より低い学年もあった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
1日当たりのゲームの時間が3～4時間以上の割合が30%前後であり、それに伴い睡眠時間が8時間未満の児童が18%以上いる。登校後、授業に集中できておらず、学習内容の定着に影響が出ていることが考えられる。	・授業に集中して取り組めるよう、生活リズムを見直す。(1日の睡眠時間の確保、ゲームの時間の見直し) ・家庭学習の内容を見直す。	・児童指導と連携し、生活リズムと学習への影響について知り、睡眠時間とゲームの時間について自分の生活を振り返り、見直す機会を設ける。 ・家庭学習の内容について、学年に応じて適切な内容かを吟味するとともに、自主学習の習慣化を図る。